

保護者・地域の皆様へ

学校評価・学校関係者評価の公表について

すでに実施しております「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果・分析を資料として、来年度に向けての具体的な取組や改善策を検討するとともに、その内容を「学校評議員」の方にご覧いただき、学校が自分たちの教育活動を正しく評価し、適切な改善を行おうとしているかについて、さまざまなご意見をうかがいました。

今回は、それを「学校評価・学校関係者評価」として集約したものを、保護者の皆様には配布の上、ホームページにて公表いたします。

来年度へ向けて、浮き彫りになっている課題について、具体的な改善の取組を始めますが、保護者・地域の皆様におかれましては、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

平成30年3月6日

赤穂市立赤穂中学校

校長 平井正彦

平成29年度 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校経営方針・重点目標

【学校教育目標】	【目指す生徒像】	【目指す教師像】
<p>『すべての生徒が安心して学習できる学校づくり』</p> <p>□教師、生徒、保護者、地域が一体となった学校づくり</p> <p>□赤穂中学校の「誇りと信頼」再構築</p>	<p>校訓 『 明けく・浄く・直く 』</p> <p>【明けく】 公明正大で、切磋琢磨して学習に真剣に取り組む生徒</p> <p>【浄く】 心や行いがきれいで正しく、やましいところがない生徒</p> <p>【直く】 正しく堂々とした生活をし、素直で誠実な生徒</p>	<p>I 人権感覚を磨き、感性を高め、人と命を大切にする教師</p> <p>II わかる授業と学力向上への工夫と改善に努める教師</p> <p>III 生徒の気持ちに寄り添い、支え伸ばす教師</p> <p>IV 生徒の主体性と可能性に期待し、信じる教師</p> <p>V 厳しさと愛情を持って生徒と係る教師</p> <p>VI 挑戦と振り返りにより自分を鍛え、成長する教師</p>

2 自己評価結果(A～D) A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

◆学習指導

【本年度の学校努力目標】

○学習習慣の確立と学力向上を図るため、「わかる授業づくり」への工夫と改善に努め、授業公開や研究協議などの確実な積み上げと合わせて、学習規律の定着を図るとともに、形式にとられないメリハリのある授業展開や学習形態などの研究を進める。

NO	評価項目	評価結果				分析			
		A	B	C	D	A	B	C	D
1	各教科において、基礎・基本を明確にし、[指導内容や教材の精選・工夫を行っている。	12	16	0	0	43%	57%	0%	0%
2	授業内容・指導方法・学習形態等の工夫や改善を行っている。(自ら学ぼうとする意欲・関心を高める/授業を活性化する/個に応じた対応をする等のために)	11	16	1	0	39%	57%	4%	0%
3	思考力や表現力を高める、問題解決的な学習指導を行っている。	7	21	0	0	25%	75%	0%	0%
4	授業で生徒の意見にしっかり「うなずき」、「認めたり褒めたり」できている。	4	19	5	0	14%	68%	18%	0%
5	到達度の低い生徒への対処を課題と捉えて取り組んでいる。	12	14	2	0	43%	50%	7%	0%
6	到達度の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫している。	4	18	6	0	14%	64%	21%	0%
7	信頼性のある、客観性の高い観点別評価づくりを行っている。	13	14	1	0	46%	50%	4%	0%
8	新学習指導要領(新教育課程完全実施)の内容を理解し、授業を計画的に行っている。	5	18	5	0	18%	64%	18%	0%
9	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	5	10	13	0	18%	36%	46%	0%
10	教員の間で、授業方法等について検討する機会を持っている。	7	5	15	1	25%	18%	54%	4%

分析と改善の方策

◆学習指導

<成果>

○H27年度から2年間の人権教育の視点を置いた授業の取組を本年さらに充実し、統一的な学習規律や授業研究が推進された。

○各クラスへのタブレット導入やネット回線などのIC学習環境も整い、電子黒板や電子書籍の利用により、わかりやすく楽しい授業の展開が行われた。

○少人数学習やT・T複数指導により個に応じた学習指導や課題学習を行うことができ、支援を必要とする生徒に対しても通級や合理的配慮を行うことで、学習への意欲や基礎学力の定着につながった。

<課題>

- ・学習規律が守られない時は、注意や指導にかかる時間が多くなり、褒めたり、認めたり、感動したり、うなずいたりする授業づくりへの取組が十分でない。
- ・会議や出張が多く、また教師の空き時間が少ないため、なかなか授業を見学したり研修したりする時間的な余裕をつくりたい。
- ・学力の差が大きく、一斉授業では習熟度に沿った授業の実施が困難な現状である。特に、学力の高い生徒への適切な対応が不十分である。
- ・若手教員の育成とベテラン教師からの授業力や指導力の引き継ぎが課題である。
- ・新学習指導要領への移行期における指導方法の転換への戸惑いがある。

<改善の方策>

- ・教科部会を定期的開催し、授業・評価・テスト・教材などを研修する。
- ・授業公開を積極的に行い、参観できる時間割設定も工夫する。
- ・学び合い・教え合う学習として、芸術科目においても、教え合うグループ学習を導入する。
- ・本日の目当てや自己評価など、何を学び、理解したかを視覚的にもわかる工夫をする。
- ・何のための勉強か、わかる楽しさや学ぶ楽しさを含め、将来を見据えた授業を展開する。
- ・過去の先生方が作成したプリントや教材を誰もが利用できるシステムを作成する。
- ・できるだけT・Tや複数指導で支援や補充、集中力の持続を高めていく体制を作りたい。
- ・1時間で個々の成長や努力に対して、評価し褒めるようにする。そのことを教師が共有する。

また、終わりの会などで良かったことなどを出し合い、自尊感情を高めるようにする。

- ・家庭での宿題や週末課題が出ていることが保護者に周知されておらず、家庭学習を保護者にチェックしてもらう体制を作る必要がある。

◆生徒指導

【本年度の学校努力目標】

○生徒が、学び合い、支え合い、共に成長する多様な教育活動を展開するとともに、日常的な活動を確実に積み上げることの大切さに気づかせ、自主・自立の精神を培う。
 ○学校復帰につながる多様なアプローチを学び、関係機関の協力を得ながら、生徒や保護者との積極的な関わりと早期対応により、新たな不登校を生み出さない取組を推進する。

11	生徒一人一人の特性を多面的に把握し、体罰を排除した心のきずなを深める内面的理解に基づいた指導や支援をしている。	11	15	2	0	
		11%	54%	7%	0%	
12	弱い立場の生徒や気になる生徒、問題行動を繰り返す生徒への声かけを根気よく行っている。	7	15	6	0	
		25%	54%	21%	0%	
13	親しみと馴れ合いの区別を付け、一定の緊張感ある言葉のやり取りをしている。	15	13	0	0	
		54%	46%	0%	0%	
14	生徒の問題行動（暴力防止及び早期対応）に対して組織的に対応できる体制が整っている。	14	14	0	0	
		50%	50%	0%	0%	
15	家庭や地域、関係機関との連携を密にした指導ができています。	11	14	3	0	
		39%	50%	11%	0%	
16	校務分掌間で連携して、清掃・挨拶・服装などの指導によく取り組んでいる。	7	20	1	0	
		25%	71%	4%	0%	
17	生徒の基本的な生活習慣は向上している。	6	14	8	0	
		19%	48%	32%	0%	
	①授業の態度・意欲	7	17	4	0	
		25%	61%	14%	0%	
	②あいさつ（登校時・下校時・授業前後等）	4	15	8	0	
		15%	56%	30%	0%	
	③登下校のマナー	3	17	8	0	
		11%	61%	29%	0%	
	④命を守るヘルメットの着用	6	19	3	0	
		21%	68%	11%	0%	
⑤遅刻	3	13	12	0		
	11%	46%	43%	0%		
⑥集会（学年・全校・行事練習）	5	18	5	0		
	18%	64%	18%	0%		
⑦清掃	3	14	10	1		
	11%	50%	36%	4%		
18	学級活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。	12	16	0	0	
		43%	57%	0%	0%	

分析と改善の方策

◆生徒指導

＜成果＞

○「いじめ」や学校生活に関する内容について、定期的に生活アンケートの実施や、教育相談やノー部活デーを利用した生徒の関りが、悩みや問題の早期発見・早期対応に役立った。
 ○休み時間等の校内巡回指導を実施し、問題行動の未然防止、早期発見に努めた。
 ○一貫した生徒指導方針を基に、厳しさと愛情を持った組織的な指導体制が確立された。
 ○コンピュータ等を活用し、事案データの一括管理を図り、全教職員の問題行動等の共通理解をスムーズに行い、職員会議では毎月、検討会が行われている。
 ○学級や学年、学校全体として話し合ったり、考えたり、取り組んだりする機会が増え、自主的に取り組もうとする姿勢が現れた。
 ○育成、カウンセラー、SSW、地域（子ども食堂）との連携が密にとれ、効果的な運用ができた。

＜課題＞

・学校の道徳や人権学習としては進んでいるが、家庭との役割分担など、ともに取組む必要がある。
 ・言葉遣い、あいさつ、マナー、清掃などの指導を継続しているが、生活に定着しておらず、地域を巻き込んで教える必要がある。特に教師も保護者も自らの行動で示さなければならない。
 ・家庭環境が多様化しているため、関係機関との連携が不可欠で、担任だけでは対応が追いつかない。
 ・生徒指導事案への対応や保護者対応への労力が多くなり、教師の勤務時間が過労死レベルに達している。働き方改革の業務改善が求められている。
 ・生徒会を中心とした自主的な取組やPTAの組織的な取組の充実が必要である。

＜改善の方策＞

・教師が掃除を黙々とする姿を見せる。
 ・生徒会の取組や学年の取組で生徒が生徒に声かけができるリーダーの育成をする。
 ・掃除の意義や掃除の仕方、掃除の分担や掃除道具など、根本を学習し、掃除に対する意識を変えさせる必要がある。また、マニュアルやルールなどの取り決めも必要。
 ・問題行動を繰り返す生徒中心の生徒指導になりがちで、もっと不登校や発言しにくい生徒中心の学級経営をしていかなければならない。
 ・担任、副担任にかかわらず、休み時間やノー部活デーを利用した生徒との対話が必要である。
 ・SSW、スクールカウンセラー、子ども食堂などをもっと活用し、様々な支援を行う。
 ・早寝早起き朝ご飯運動に取り組み、スマホやゲームも合わせた生活改善の取組を行う。
 ・昼休みやノー部活デーの放課後など、クラスや学年で遊んだり、活動したり、学習したりする時間を作り、教師と生徒の信頼感を高める。
 ・指導を何回も繰り返し、その場で、はっきりと、だめなことや間違っていることを指導する。
 ・聞き取り調査や生徒からの情報などは大切に、秘密も守りながら、最大限褒めたり、全体に返したりして、自分たちで楽しいクラス・学年・学校を作ろうとする心を育てる。
 ・PTA活動として、授業や学校生活の参観や掃除や給食などの手伝いなどを協力を要請し、各家庭と連携する。
 ・小さな変化を見逃さず、家庭との連携や家庭訪問をこまめに繰り返す。
 ・登下校指導や校外での問題行動などはできるだけ地域や関係機関の協力をお願いする。

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

【本年度の学校努力目標】

- 生徒会を中心とする自主的活動や仲間づくりの活性化と適切な支援により、集団の自浄力を高め、学校の秩序と信頼の定着を図る。
- 人権尊重の精神に基づき、生徒を大切にする立場で考え、実行し、すべての生徒が安心して学習や集団活動ができる学校環境をつくる。

19	互いの違いを認め合い、共に支え合う集団づくりを実践している。	8	20	0	0	29%	71%	0%	0%
		29%	71%	0%	0%				
20	集団づくりで埋もれがちな個性や違いを大切に、画一的でなく一人一人の違いを認める生徒観や指導観を持って実践している。	7	20	1	0	25%	71%	4%	0%
		25%	71%	4%	0%				
21	魅力ある学校行事となるよう、工夫や改善を行っている。	10	15	3	0	36%	54%	11%	0%
		36%	54%	11%	0%				
22	生徒が主体的に活動する生徒会活動となるよう、学校全体で支援している。	9	15	4	0	32%	54%	14%	0%
		32%	54%	14%	0%				
23	JRC活動を推進する適切な指導や支援を通して、奉仕の精神を養いボランティア活動への意欲や態度を養っている。	7	12	9	0	25%	43%	32%	0%
		25%	43%	32%	0%				
24	生徒が個々の能力に応じて達成感を得られるよう、部活動の活性化に努めている。	5	22	1	0	18%	79%	4%	0%
		18%	79%	4%	0%				
25	教育活動全体を通して規範意識を高め、道徳性を涵養する指導や支援を行っている。	7	20	1	0	25%	71%	4%	0%
		25%	71%	4%	0%				
26	教室環境、校内環境、校内掲示、学校園整備、校外環境の改善が図れている。	8	19	1	0	29%	68%	4%	0%
		29%	68%	4%	0%				
27	「道徳の時間」を大切に、よりよい授業づくりに努めたり、指導方法の工夫や改善を図っている。	12	14	2	0	43%	50%	7%	0%
		43%	50%	7%	0%				
28	いじめは「決して許さない」の姿勢で毅然とした指導を行っている。	22	6	0	0	79%	21%	0%	0%
		79%	21%	0%	0%				

分析と改善の方策

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

< 成果 >

- 学校経営基本方針の「学びあい、支えあう」取り組みが充実し、全領域に渡り、仲間づくりや集団での活動を取り入れた形態が実践された。
- 新しい教育課題であるキャリア教育や人権教育、防災教育(命の教育)、体験型集団活動(HAP、トライやる、福祉体験)を推進し、外部の人材を活用する取組ができた。
- 道徳授業においては、道徳の教科化を迎えるにあたり、授業時間の確保や教材研究の充実などに努めており、ローテーション授業の実施や研究会等、より効果的な授業の創造に努め、特別な教科道徳の先行実施に取り組めた。
- ノー部活デーを、週一日完全実施ができ、生徒の体力的、精神的な休息日を確保した。

< 課題 >

- ・生徒数や指導教師の人数、活動場所などにより、部活動数の削減が検討されなければならない。
- ・道徳の授業が充実してきているが、生徒の道徳的実践力につながっていない、特に差別的な言葉や人を傷つける言葉を悪気もなく使っていることへの指導は、家庭との連携も必要である。
- ・JRCの学習や啓発が不十分であり、生徒のボランティアへの関心や意欲が低い。

< 改善の方策 >

- ・ボランティア活動をした生徒から、よかった、楽しかったなどを他の生徒へ広める気機を作る。
- ・JRCについて教員がまず学習し、授業や講演などを行う。
- ・もう少し行事の精選を行い、生徒に今何が必要なのかを見極めて、再検討する。
- ・ボランティア活動を意図的に作る。(専門部や係、学年担当)などと決めずに、ボランティアの募集をみて、申し込んで参加する習慣をつける。
- ・3年間を見通した年間計画を作成し、リーダーの育成を充実させていく必要がある。
- ・生徒自ら考えたり、決めさせたり、ワークショップや話し合いの活動の場をつくる。
- ・朝の会や終わりの会で目標や反省をしっかりとできるように充実させる。
- ・道徳・学活でアサーションやライフスキルトレーニングを取り入れ、通信などで保護者に情報を伝える。
- ・教師の指導も感情的にならず、言葉にも気をつけて指導する。

分析と改善の方策

◆ 特別支援教育の充実

【本年度の学校努力目標】

- インクルーシブ社会の実現をめざす特別支援教育の充実や社会のグローバル化に伴うコミュニケーション能力の向上を図る英語教育の充実、さらに道徳教育の教科化などの今日的課題を見据えた取組の推進を図る。

29	「特別支援教育」(特別支援学級と通常学級内の“気になる子”)に対する積極的な理解を図っている。	13	14	1	0	46%	50%	4%	0%
		46%	50%	4%	0%				
30	一人一人を大切に、異なる個性を輝かせる仲間づくりに努めている。	9	18	1	0	32%	64%	4%	0%
		32%	64%	4%	0%				
31	障がいをもつ人々への理解を深め、「共に生きる」社会を築く資質を養う指導に努めている。	9	16	3	0	32%	57%	11%	0%
		32%	57%	11%	0%				
32	差別や偏見など、生徒たちに身の周りにおける不合理や矛盾に気づく感性を養っている。	7	12	9	0	25%	43%	32%	0%
		25%	43%	32%	0%				
33	支援を要する生徒たちの情報を幅広く交換し、生徒理解したり研修する校内の支援体制ができている。	10	13	5	0	36%	46%	18%	0%
		36%	46%	18%	0%				
34	必要に応じて小学校や関係機関と連携し、生徒支援が効率的に進められるようにしている	8	15	5	0	29%	54%	18%	0%
		29%	54%	18%	0%				

◆ 特別支援教育の充実

< 成果 >

- 特別支援教育の充実を、学校目標の中核に位置づけ、合理的配慮の義務化にともない、全職員で研修や支援体制の強化に努め成果を上げた。
- 特別支援学校などの専門機関を活用し、具体的な支援教育の進め方や指導方法の実践に努めた。
- 個別の支援計画や指導計画を作成し、卒業後の進路も踏まえた指導体制が確立された。

< 課題 >

- ・特別支援学級の生徒が交流学級で生活することに戸惑いがある。また、悪気もなく差別的な発言も多く、家庭との連携での指導が課題である。
- ・通常学級で特別な支援を要する生徒(多動で人に迷惑をかける生徒)の指導法が難しい。
- ・インクルーシブ教育やユニバーサルデザインなど環境面での整備も必要である。

< 改善の方策 >

- ・専門的な学習と具体策、や支援・配慮・指導方法などの研修を行う。
- ・教師自ら丁寧な言葉遣いを実践し、生徒の言ってはいけない言葉などを即座に注意する。
- ・道徳だけでなく全領域で人権の視点を置いた学習を進め、支援や指導方法を共有する。

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進

○福祉・ボランティア活動や地域への貢献活動を展開・充実させるとともに、わかりやすく見やすい紙面による学校情報の発信、地域団体との連携、オープンスクールの拡充、地域人材の活用などを通して、地域に開かれた学校、地域に根ざした学校教育を推進する。

35	教育活動全般について、生徒や保護者、地域の願いによく応えている。	5	22	1	0	
		18%	79%	4%	0%	
36	教育効果を高めるために地域や外部の教育力の活用を図っている。	7	17	4	0	
		25%	61%	14%	0%	
37	保護者や地域に積極的に情報を提供し、連携に努めている。	12	15	1	0	
		43%	54%	4%	0%	
38	保護者や地域の人たちと接する機会を多くもっている。	7	18	3	0	
		25%	64%	11%	0%	
39	教職員はPTA活動によく参加している。	7	16	5	0	
		25%	57%	18%	0%	
40	教育活動全般について評価を行い、次年度の計画に生かしている。	13	14	1	0	
		46%	50%	4%	0%	

◆ 学校・教職員

41	「授業が最大の生徒指導である」の視点に立ち、授業研究や校内研修への意識を高く保ち、実践への機運が高まっている。	8	18	2	0	
		29%	64%	7%	0%	
42	各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	7	16	5	0	
		25%	57%	18%	0%	
43	職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討・解決の場として有効に機能している。	12	14	2	0	
		43%	50%	7%	0%	
44	教職員間の相互理解が十分になされ、管理職や同僚への「報告・連絡・相談」が十分にできている。	12	16	0	0	
		43%	57%	0%	0%	
45	教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえる。	17	10	1	0	
		61%	36%	4%	0%	
46	様々な事に対する危機意識が高く保たれている。	7	19	2	0	
		25%	68%	7%	0%	
47	課題解決のための校内研修組織が機能し、学校課題に対する研修や取り組みが進んでいる。	9	17	2	0	
		32%	61%	7%	0%	

分析と改善の方策

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進

<成果>

○オープンスクールの機会を増やし、時間を決めず自由に参観できることが定着し、コミュニティールームの利用者も増え、年々、多くの保護者、地域の方の参加があった。
○学校行事もできるだけ地域の方も参加できるよう案内した。また、地域行事やまちづくりの会合等、積極的に参加し、学校だよりを全戸回覧するなど、情報発信を行った。
○生徒や職員の地域行事やボランティア参加が活発となり、地域からの感謝など反響が多くなった。

<課題>

- ・社会の多様化や個々を重視した社会の中で、教師、保護者、地域それぞれの願いが違い、お互いの意見や思いを共有する必要がある。
- ・参観に来て欲しい保護者が学校に気持ちが向かない。
- ・地域の方のゲストティーチャーや地域の方の人材を活用できていない。

<改善の方策>

- ・学級通信や学年通信を定期的に発行し、メールなどで配布した旨の情報を保護者に伝える。
- ・家庭でのしつけと学校での指導のずれをうめ、統一した指導を進めるよう思いを共有する。
- ・校内の見回りや、掃除・給食なども地域の方や保護者と一緒に行えばと考える。
- ・部活動も含め、地域や外部指導者を積極的に取り入れることにより、学校の閉鎖性を改善する。

分析と改善の方策

<成果>

○若い教師が増え、活気があり、活発な教育活動が行える。
○若手教員育成のための組織として中堅教員が中心となり取り組むことができた。
○ノ一部活、定時退勤の実施により、退勤時間が早くなった。
○誰もがができるような学校業務マニュアル作成をし、業務改善を促した。

<課題>

- ・教科の特異性や校務分掌によって、相談する機会少ない。
- ・会議・責任出張や複数授業の時間数も多く、ゆとりもなく定時退勤日でも帰れない。
- ・職員室の机上が煩雑すぎる。整理整頓ができていない。
- ・会議時間が長い。
- ・退職や移動に伴い、公務の引き継ぎや伝達、電子データの整理が必要。

<改善の方策>

- ・中規模校のため、学年の枠があり、他学年の情報共有が必要である。
- ・机上整理を行い、すぐに話せる環境や、メモがすぐわかるような職員室の環境を作る。
- ・ホワイトボードや連絡ボードを積極的に活用し、意思疎通や共通理解を図る。
- ・年々、業務マニュアルを追加し、充実させていく。
- ・分掌を引き継いだり、マニュアルを作成したりして、分掌が一極集中にならないようにする。
- ・救急搬送時対応の訓練や学習が必要。また、不審者対応やアラートなどの対応も学習すべき。
- ・会議時間を短縮し、定時退勤日、ノ一部活・ノ会議、ノ生活ノートなどで勤務時間の適正化を図る。

学校関係者による総合評価

A 自己評価の結果について

- それぞれの先生方が問題意識を持って、真摯に受け止められた評価結果だと思います。
- 先生方の努力の効果が現れている。学習指導の創意と工夫をこらし、生徒接する姿が素晴らしいと思います。
- 登下校時のマナーなど、先生方の自己評価と生徒アンケート回答に、かなりの差が見られます。
- 若い先生が多いということで、若干厳しい評価であるように感じます。
- 客観的に自己評価されていて、意義ありません。
- いじめなどの対応に毅然とした指導をされていることに安心しますが、先生が見えないところの部分をどうするかが必要です。

B 分析と改善策について

- 生徒の「うなずき、ほめる」は一人一人をしっかりと見て、即対応しなくてはならないので、それができないと言うのは、対生徒（一人一人）の時間がいろんな場面で少ないのだと思います。限られた時間の中での確保は大変だと思いますが、チーム赤中で協力・工夫で頑張っていたいただきたいと思います。
- 教師の勤務時間が過労死レベルに達しているの表現はいかかなものか？
- することが多く、時間が無いと言われれば何も言えない。改善のための工夫をするにも時間が取られる。これらの内容は個人の意見を単にまとめたものであるので、それをさらに全員で検討し、推進されていけば深まるのではないかと思います。
- いろいろな生徒に対して、その生徒に会った指導をする先生方が目に浮かびます。一長一短と思うように行きませんが、こつこつと頑張ってください。
- PTA の組織的な取組の拡充、家庭との連携とありましたが、本当にその通りだと思います。具体的な先生のご意見を PTA 本部に提示していただき、PTA で取り組めることは実行していきたいと思います。

C 課題と提言について

- ・中学校で学んだいろいろな事は、大人、社会人になった時に生活していく、生きていくための力の基礎、元、基本だと感じたり思うことがとても多いです。
- ・大切な3年間を先生方だけにお任せするのでなく、家庭・地域が協力していく事がとても大切だと思います。協力させてもらうことができましたら、何なりとお申し付けください。
- ・他の授業見学の機会や服装・あいさつの指導が気になります。経営の三要素に「人」「もの」「金」が昔からありますが、現在は、プラス「情報（技術やノウハウ）」「時間（ボリューム・人手）」の五要素と言われております。教師の中で、どれだけの方が、正しい清掃の仕方・言葉遣い・身だしなみを知っているのか、非常に考えさせられる今日この頃です。ある会でも、スーツ姿・ジャージ姿色々です。若い教師育成はここからだと思います。

昨年、小学校の同窓会を50年ぶりに初めて行い、80代の恩師が「もっと立派な授業をしてあげたら」と悔やんでいた事を思い出した。教師はええ仕事やなと強く思いました。頑張ってください。

- ・どの内容にしても生徒、先生、保護者、地域が互いに認め合い、係わり合って同じ方向を向けるのが理想。教師間、教師と生徒間、教師と保護者間、生徒と保護者間、生徒同士も他人事にならないように。
- ・生活面など、教師側がひとつひとつ手を出し教えるのもいかなものかと思います。もっと生徒自身に責任を持たせるのはどうでしょうか。
- ・学校、保護者、家庭と皆が協力し合い、これまでは授業だけで良かったと思いますが、家庭との密なる連携や保護者との話し合いも大切だと思います。
- ・オープンスクールの時間を制限せず、自由に参観できるシステムは、とても良いことだと思います。多くの保護者や地域の人々に参加されることにより、生徒はもちろん、先生方にも良い刺激になっているのではないのでしょうか。
- ・働き方改革・ライフワークバランスとして、教職員の皆様が働きやすい職場環境作りについて、どんどん意見をあげていただければ幸いです。経費・組織・しくみ等市政を巻き込み改善していきましょう。
- ・メール配信で学校の様子や宿題・プリント配布などをお知らせしてみてもどうでしょうか。
- ・タブレットなどをもっと活用しわかりやすい授業をどんどん推進してください。また、理解度が高い生徒のための授業方もご検討ください。
- ・言動やマナー、礼儀などは利他的な心を育まなければなりません。まずは、感謝日記のような、いかに人に助けられているかを知ることから始めてほしい。

